

科名 血液内科

対象疾患名 移植前処置

プロトコール名 FL+iv-BU(1日1回)+ATG

Rp	形態	ルート	薬剤名	投与量	時刻・コメント	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0
1	CV	側管	グラニセロンパック	1mg	30分かけて	↓	↓	↓	↓	↓		
2	CV	側管	フルダラ注 注射用水 生理食塩液	30mg/m ² 2.5mL 100mL	60分かけて	↓	↓	↓	↓	↓		
3	CV	側管	ソルメドロール 生理食塩液	125mg 100mL	サイモグロブリン投与1時間前 内服前処置も行う			↓	↓	↓	↓	
4	CV	側管	生理食塩液	100mL	サイモグロブリン試験投与用		↓					
5	CV	側管	サイモグロブリン 注射用水 生理食塩液	2.5mg/kg 5mL 500mL	6時間以上かけて 要フィルター			↓	↓	↓	↓	
6	CV	側管	ブスルフェクス 5%ブドウ糖液	3.2mg/kg 500mL	3時間かけて 調製後8時間以内に投与終了 ブドウ糖液はブスルフェクスの10 倍量にする			↓	↓	↓	↓	

1コース=7日間

～MEMO～

適正体重補正:本プロトコールは、reduced intensity conditioning(RIC)であり、体重補正を行い、投与量を調節する。

各薬剤の上限投与量 理想体重×120%

〈ブスルフェクス〉

・ブスルフェクスを、10倍量の生理食塩液、又は5%ブドウ糖液で希釈する。

・調整後は8時間以内に投与終了。

・痙攣予防として、フェニトインを内服する。

(ex:アレビアチン(100) 3T/3x 毎食後)

〈サイモグロブリン〉

・HLA一致の血縁ドナーの場合はサイモグロブリンは投与しない。

・試験投与

投与初日は試験投与を行う。

①1vを注射用水5mLに溶解し、このうち 0.5mLをとる。

②①を生理食塩液 100mLに希釈し、1時間以上かけて投与。

・アナフィラキシー予防

投与1時間前に ソル・ムルコート125mg静注、アセトアミノフェン 0.5g/回、ホラミン錠 2mg/回の内服を行う。

途中アレルギー症状あれば再度追加検討。

・インラインフィルター付(0.2μ)点滴セットを使用すること。

〈フルダラ〉

・1vあたり 2.5mLの注射用水で溶解。